

## 第八講 農業の始まり

### 新石器先土器時代 A (9500-8800BCE)

レヴァントの考古学時代

ナトゥーフ期の採集経済から先土器新石器時代 B の農業経済への過渡  
期

ナトゥーフ文化の連続と革新

小型の円形泥煉瓦小屋、穀物の栽培、野生獣の狩猟、床下埋葬

円形の半地下式家屋（礎石、碎石を敷き詰めた床、泥煉瓦による壁体、）  
炉、貯蔵庫

イエリコ（2000～3000名、周壁と塔）

床下や家の壁の中に埋葬

鎌刃、石鏃、斧、手斧

大麦やオート麦の栽培

狩猟

家屋内の貯蔵室（所有権を表す）

宙ぶり床による貯蔵（空気の循環と齧歯類の被害を防ぐ）

→定住

ヤンガー・ドリアス以降の温暖化と乾燥化

レバノン山脈西側斜面→ヨルダン川溪谷部へ

リサン湖の水位低下

死海やガリレエ湖

各地に低湿地の形成

高地定住地から低地定住地へ

季節的（春・夏）居留地の定住地化

低地定住地の巨大化

小規模な高地居留地

麦や豆の栽培

起耕具（斧・鑿・ピック）

採集具（鎌刃）

製粉機（石臼・石棒）

採集経済から低湿地園耕経済へ

先土器 B 新石器時代 (8800–7000 BCE)

湿潤化→丘陵部にナラやカシの林の拡大

リサン湖の水位低下→低湿地の消滅

定住地の移動：低湿地から丘陵部へ

粗放天水農業へ

羊の家畜化

ガゼルからヤギ・ヒツジへ

動物の小型化

動物組成の変化

動物の本来の生息圏以外の地からの出土

オスの年齢構成の低年齢化とメスの高年齢集団

家畜化に伴う病変：歯槽膿漏・脚の病変

方形の家屋：厚く塗られた漆喰（粘土と焼成石灰）による床面と壁面

（→土器製造に帰結する）

焼成技術の発展

前 7000 頃：原土器（白色）・・・テル・ネバア・ファウル遺跡（ベカー

溪谷）など・・・石灰やソーダ灰からつくられる。焼成する前にバ

スケットに張り付けて作る

アナトリアからの伝播説

8200BP（6200BCE）の気温の急低下→先土器 B 新石器文化の消滅